

**製品名: CNOT7 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86524**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC, IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:500-1:1000, FC 1:200-1:1000, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:33 kDa; Observed MW:33 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CNOT7
別名	Caf1; Pop2; CAF-1; AU022737
遺伝子 ID	18983
SwissProt ID	Q60809
免疫原	マウス CNOT7 の合成ペプチド

**背景**

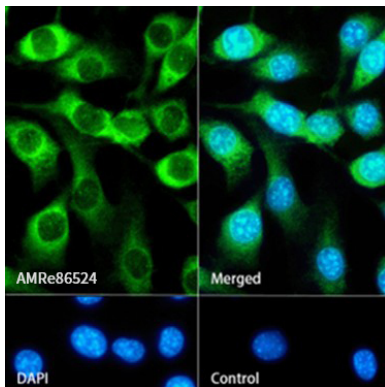
合成ポリ(A)RNA基質に対する3'-5'ポリ(A)エキソリボヌクレアーゼ活性を有する。その機能はCNOT8の機能と部分的に重複している。

と考えられる。主要な細胞内 mRNA デアデニラーゼの一つである CCR4-NOT 複合体の触媒成分であり、バルク mRNA 分解、miRNA を介した抑制、翻訳開始時の翻訳抑制、および一般的な転写制御を含む様々な細胞プロセスに関連している。miRNA を介した抑制においては、この複合体は翻訳開始時の翻訳リプレッサーとしても作用すると考えられる。複合体のその他の機能は、mRNA 発現への影響の結果である可能性がある。miRNA を介した mRNA デアデニレーションに必須。

## 研究分野

-

## 画像データ



CNOT7 ウサギモノクローナル抗体を使用して CNOT7 を標識した NIH/3T3 細胞の免疫蛍光分析。